

4、5歳児の子どもの保護者の意識調査 《概要》

2011年

【調査目的】

本調査研究は、子どもを取り巻く環境の急速な変化に伴う、習い事に関する保護者の意識や親子の音楽の楽しみ方について考察することを目的としています。本アンケート調査では4、5歳の子どものもつ日本、アメリカ、フランス、インド、中国および韓国の保護者を対象に、子どもの「生活時間・生活習慣」、「習い事」および「音楽活動」の3側面から、子どもの生活の実態や保護者の考え方を把握することを試みました。

【調査概要】

企画・調査：ヤマハ音楽研究所 研究開発室

調査実務：一部NTTコム オンライン・マーケティング・ソリューション株式会社へ委託

調査期間：2011年2月3日～10日

調査方式：gooリサーチを通じたインターネット調査

調査対象：4歳児または5歳児の保護者 1,042名

調査項目：【生活時間・生活習慣】子どもの帰宅時間／子どもの就寝時間／子どもの生活習慣

【習い事】(0歳～4、5歳まで)ある習い事を開始した年齢／(4、5歳以降)ある習い事を開始したいと考える年齢／習い事にかかる費用

【音楽活動】家庭での音楽活動／家庭で音楽を聴くときに使用する機器／子どもが家庭で親しんでいる楽器／よく聴く音楽のジャンル／同居家族の音楽体験／家庭、幼稚園、保育所等以外での音楽イベントやコンサートへの参加機会

【結果概要】

子どもの「生活時間・生活習慣」、「習い事」および「音楽活動」の3側面から、保護者の意識の今日的傾向をみると、本調査の結果、生活習慣については国際的に多くの共通点や類似点が確認されました。他方、保護者が子どもを習い事に通わせ始めたいと考える年齢や、音楽活動については、さまざまな考え方の違いがみられました。特に日本の保護者が適切と考える、習い事の開始年齢は、その内容や種類によって異なります。例えば、音楽系やスポーツ・文化系の習い事は「4、5歳」または「小学校低学年」で習わせ始めたいとする回答が多い一方で、子どもの成長に伴い保護者の主たる関心が「学習塾」など学習系の習い事に集中する傾向がありました。また音楽活動に関する調査項目では、日本の子どもが家族で音楽イベント等に参加する機会は、海外と比較してあまり多くありませんでした。調査レポートでは、グラフ等を用いてこれらを含む本調査結果の詳細をご覧ください。